

高率補助下の公共工事⑤

帰前と大きく変わっている。画面上で、四角く切り取られたように所々濃青に映るリーフ内の海の色は、造成事業のため掘削され、水深が深くなった跡だという。しかし、その跡を陸上から見る機会はほとんどない。「木を見て森を整備はある程度必要との立場をとるが、工業用地や住宅用地を造るための埋め立ては批判する。「人間は環境全体に及ぼす影響を簡単に数値化できない」との思いから、埋め立ては本来、最小限にとどめなければならぬと考えるか

埋め立て影響計れず

を見ず、というように、沿岸全体がどうなっているかなかなか分からない。埋め立てが環境全体に与える影響も計り知れない」。

埋め立て事業による「地域振興」は、あくまで人間にとって算定可能な経済効果が根拠になってきた。ただ、環境への影響を数値化することは難しい。

仲座教授は、漁港の整備や台風時の高潮被害を防ぐ護岸



沖縄本島の空中写真を見ながら人工化した海岸線をたどる琉球大学の仲座栄三教授。20日、琉球大学

大型店舗が進出した郊外の埋め立て地に人が集まり、新たな街が造られている。

対策。数十倍規模の津波をまったく想定しておらず、リーフを埋めた代償は大きい」と防災上の問題を指摘する。

近年、県内各地で中心市街地の空洞化が顕著だ。一方で

「中心市街地が空洞化しているのに、埋め立て地は拡大している。県内の自治体がつてきた選択肢を考えると、今の埋め立て地は将来、どうなっていくのか」。仲座教授は、数値化できる経済効果を優先させてきた地域振興の代償を想像し、表情を曇らせた。「沖縄振興」取材班

第2部「いきすぎた依存」